F★★★★
ホルムアルデヒド放散等級

非トルエン・キシレン塗料
(一社)日本塗料工業会　室内環境対策のVOC自主表示　ガイドライン～「非トルエン・キシレン塗料」～に適合

ALES DYNAMIC TOP

水性反応硬化形ハルスハイリッチシリコン樹脂塗料

アレスダイナミックTOP

KANSAI PAINT

外壁を長期に保護するために

風雨や熱や太陽光線など、地上では常に厳しい環境にさらされています。
紫外線は人の肌と同じく、建物の仕上材を攻撃し劣化を促進させ、
晴天の日だけでなく、曇りや雨の日でも降り注ぎます。
さらに、オゾン層破壊の影響で紫外線量は年々増え続けていることから、
人も建物も、健康を維持するには紫外線から護ることが最も重要です。

「気象庁 日最大UVインデックス（推定値）年間推移データ」より引用

11+	極端に強い	日中の外出はできるだけ避け、必ず長袖シャツ、日焼け止め、帽子の利用を心がける。
8～10	非常に強い	
6～7	強　い	日中はできるだけ日陰を利用し、できるだけ長袖シャツ、日焼け止め、帽子の利用を心がける。
3～5	中程度	
1～2	弱　い	安心して外出できる。

UVインデックスとは	紫外線が人体に及ぼす影響の度合いをわかりやすく示すため、紫外線の強さを示した世界共通の指標です。

■ 紫外線による影響

人体への影響	建物の仕上材への影響
・皮膚がん　・白内障 ・シミ、ソバカス　・視力低下 ・皮膚の炎症	・塗膜の破壊 ［つや引け、変色、ワレ ハガレ、磨耗・風化］

塗膜の劣化を防ぐために
紫外線に強い塗料選びが大切

劣化の原因物質「ラジカル」に着目

「ラジカル」とは、塗料の主成分のひとつ「酸化チタン」に紫外線が当ることにより発生する物質で、塗膜を破壊し劣化を促進させます。関西ペイントテクノロジーを駆使し、塗膜劣化の原因物質である「ラジカル」の発生を抑える技術を開発しました。

動画でチェック

4つの技術で紫外線から外壁を護る

「ラジカル」の発生と活動を抑えることで、塗料の耐久性を飛躍的に向上させます。

高性能シリコンレジン

超強力な結合エネルギーを持つ国産「高性能シリコンレジン」で紫外線劣化を阻止

UVトラップ

「高性能シリコンレジン」をすり抜けた紫外線を「UVトラップ」で無害化

ラジカルバリヤコート

酸化チタンへの紫外線到達を阻止しラジカル発生を抑制

HALSラジカルキャッチャー

極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し全て無害化

高性能の上塗で外壁を長期に保護

アレスダイナミックTOPの特長

- 最上位品フッソに迫る高耐候性
- 樹脂性能を最大限に引き出す
  ラジカル制御技術を採用
- 超低汚染
- カビ、藻が付着しにくい
- 臭気の少ない水性塗料
- 艶の選択が可能
  ［艶有り、7分つや、5分つや、3分つや、艶消し］
- 強力な付着力
  ［強化剤を配合することで、湿潤面や
  高湿度環境での施工が可能］

促進耐候性試験結果

塗料の種類

耐久性の良い塗料を選ぶことで長期間の保護が可能になり
長い目で見るとトータルコスト低減につながります

塗り替えサイクルコスト

「ダイナミック強化剤」を組み合わせ 湿潤面や高湿度で塗装可能

独自の緻密・強靭塗膜形成技術により高い付着力を発揮します。
下・中塗材「アレスダイナミックフィラー」さらに「ダイナミック強化剤」と
組み合わせることで、従来は塗装できなかった湿潤面への塗装も可能になります。

強力な付着力により弱った面にも安心して塗装できます。

※手工具で簡単に剥がれたり、下地から浮いた旧塗膜に対しては、適切なケレンと下地処理を行ってから塗装してください。

梅雨時期への対応だけでなく高湿度になりやすい場所（北面、水回り付近、日陰）にも有効です。

ALES DYNAMIC TOP
プラスα機能

悪天候による工期遅延が少なくなり、近隣への心配もなくなります。

計画通り足場を撤去できるため、安全性や洗濯など日常生活への影響も少なくなります。

アレスダイナミックTOP 付着試験（JIS 基準値 0.7N/mm²）JIS温冷繰り返し10回試験後

標 準 色

Selection Colors

KP-111
KP-110
KP-112
KP-223
KP-310
KP-121
KP-133
KP-221
KP-120
KP-127
KP-131
KP-80
KP-337
KP-336
KP-141
KP-247
KP-330
KP-147
KP-350
KP-75
KP-347
KP-150
KP-352
KP-70
KP-356
KP-357
KP-368 ◎
KP-50
KP-367
KP-167
KP-376
KP-379 ◎
KP-170 ◎
KP-385 ◎
KP-185 ◎

この色見本は、印刷のため実際の仕上りと多少異なります。
◎印は、濃彩色のため材料費が割高になります。

仕上材

アレスダイナミックTOP

主　材：15kg

・艶有り・7分つや・5分つや・3分つや
・艶消し（強化剤は使えません）

湿潤面用
ダイナミック強化剤
セット

強化剤:0.08kg×2

下塗・中塗

アレスダイナミックフィラー

主　材：16kg

湿潤面用
ダイナミック強化剤
セット

強化剤:0.08kg×1

■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様（通常仕様）

適用下地　コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工　程	塗料名・処置	荷　姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m²/回)	希釈率（重量%）	塗り重ね乾燥時間（23℃）
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下　塗	アレスダイナミックフィラー 上水	主材16kg	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30～0.50 0.80～1.50	5～10 1～5	8時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	2時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	―

※下塗には、アレスダイナミック防水フィラー、アレスダイナミックプラサフ、アレスダイナミックシーラーアクア、アレスダイナミックシラーマイルド、アレス水性エポレジン、浸透形Mシーラー、エコカチオンシーラー、アレス弾性ホルダー防水形、アレスゴムタイルニューラフなども使用可能です。
※艶消しは、希釈率0～10%としてください。

■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様（湿潤面・高湿度環境仕様）

適用下地　コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工　程	塗料名・処置	荷　姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m²/回)	希釈率（重量%）	塗り重ね乾燥時間（23℃）
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。水滴はウエス、雑巾などで拭き取るか、エアーブローまたは新品の中毛ローラーにて除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下　塗	アレスダイナミックフィラー 上水	主材16kg、強化剤0.08kg×1	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30～0.50 0.80～1.50	5～10 1～5	16時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg、強化剤0.08kg×2	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	8時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	―

※湿潤面塗装時の希釈は水分の巻き込みを考慮し、1～3%程度少なく調整してください。　※乾燥時間は乾燥面に比べ2～3倍程度乾燥が遅くなります。
※上塗2回目は乾燥した状態で塗装ください。　※艶消しに強化剤を使用すると、つやムラを生じますのでご使用出来ません。

施工上の注意事項

●塗り替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシ等でぜい弱な塗膜を除去し高圧水洗を行ったのち、1日乾燥後塗装してください。乾燥時間が少ない場合は強化剤をご使用ください。
●使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は長く放置されると容器内で分離（顔料沈降）することがありますので、十分攪拌の上、ご使用ください。
●PC板、押出成型板、GRC板などの緻密な素材には、溶剤系エポキシシーラー（マルチタイルコンクリートプライマーEPO、浸透形Mシーラー）をご使用ください。
●シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シープラ」または「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
●軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」を塗装してください。
●ハケ塗りで補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご留意ください。
●合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などと塗膜の接触は避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起こる場合があります。
●汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
●素材、旧塗膜の種類などの状態で塗付量の増減があります。
●ベース、強化剤は規定量の配合で行ってください。ベース、強化剤混合は撹拌機（オートマゼール）を用いて、よくかき混ぜて均一にしてから使用してください。（特に缶の四隅は十分に攪拌してください。）
●使用時限（23℃で6時間以内）を越えた塗料は絶対に使用しないでください。（必ず使用時限内に使い切ってください。）使用時限以上経過した塗料は、所定の塗膜性能を発揮しないため、塗料状態が塗装可能であっても使用しないことを厳守してください。
●希釈率は、環境温度や湿度によって変化する場合があります。
●過希釈の場合、ハジキ・光沢低下・色味変化などを生じる場合がありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
●軽度の水滴はそのまま塗装できますが、水量が多いと付着力低下やパターンが作れなくなりますので、水滴をウエスで軽く拭き取るか、エアーブロー、新品の中毛ローラーで水滴を除去してから塗装ください。
●塗装用具などは、その日のうちに洗浄してください。（反応形塗料のため固まってしまいます。）ハケ、中毛ローラーなどは水で落ちにくい場合、ラッカーシンナーを用いて洗浄してください。多孔質ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますのでお湯で洗浄してください。
●強化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。
●強化剤は第3石油類危険物第4類となるため、危険物貯蔵保管場所を確保してください。（ベース、強化剤混合後は非危険物扱いとなります。）取扱中は出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、保護めがね、手袋、頭巾、長袖作業服、襟巻きタオルなどを着用してください。皮膚に付着した時は、石鹸水で洗い落とし、痛みや外傷が生じた時は医師の診断を受けてください。取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、鼻孔洗浄を十分に行ってください。
●濃彩色の塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類寝具類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。
●艶消し仕上げの場合は建物の構造上、雨掛りの少ない面や結露が生じ易い場合において、塗膜表面に膨れ、白化、艶ムラ、粘着物が発生する恐れがあります。著しい結露が予想される場合は、溶剤系塗料での施工をお勧めします。
●艶消し仕上げの場合は、降雨や結露等により塗膜表面に粘着物が発生した際には、水道水で十分に洗浄または水拭きにより除去した後、十分乾燥させてください。
●艶消し仕上げの場合は塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛かった場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は強制換気などで乾燥を促進させてください。
●ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
●過希釈は隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
●補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
●防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理をしてから塗装してください。
●開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保管し、速やかに使い切ってください。

KANSAI PAINT

MADE IN JAPAN

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。
詳細な内容については安全データシート（SDS）をご参照ください。

■予　防　策

取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護めがね・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

■対　　応

目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

■保　　管

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

■廃　　棄

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。）

■施工後の安全

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道	TEL(0133)64-2424	FAX(0133)64-5757	東　京	TEL(03)5711-8905	FAX(03)5711-8935	中　国	TEL(082)262-7101	FAX(082)264-3285
東　北	TEL(022)287-2721	FAX(022)288-7073	中　部	TEL(052)262-0921	FAX(052)262-0981	四　国	TEL(0877)24-5484	FAX(0877)24-4950
北関東信越	TEL(028)637-8200	FAX(028)637-8223	大　阪	TEL(06)6203-5701	FAX(06)6203-5603	九　州	TEL(092)411-9901	FAX(092)441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(21年10月13刷PKO) カタログNo.774